

2023年6月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 6月えんだより

6月の聖句「主はわたしたちを造られた。」

詩編 100 篇 3 節

今年の5月は、厳しい暑さで真夏日となる日と少し肌寒い日が入り混じり、体調を崩すこども達が多かったように感じます。6月はいよいよ梅雨の時期、より体に厳しい季節を迎えますが、しっかりと体調を整えて毎日の生活を楽しむことができるように祈っています。

NHKの朝ドラ、調べてみると60年以上前にスタートしていました。中でも、「おはなはん」(1966年)のオープニング音楽や「鳩子の海」(1974年)の中で歌われていた「日本よ日本愛する日本、緑の日本青い海」といった歌も耳に残っています。その朝ドラを久しぶりに見るようになりました(録画ですが)。今放送されているのは、日本の植物分類学の父とされる牧野富太郎博士の物語です。牧野博士は幼い頃から野にある植物に興味を示し、小学校を中退した後も、独学で植物学を学んで世界的な植物学者になられたそうです。牧野博士が生まれ育ったのは高知の城下町から西に離れた山あいの町、今も自然豊かなところですが、そのような環境の中で、人々に名も知られていないような野にある草花に心を奪われていったのだと思います。ドラマの中でも何度も語られていますが、博士の「雑草という草はない。それぞれに名前があり、場所と時を選んで咲いている。」という言葉が印象的でした。博士は、また、「植物は人間がいなくても少しも構わずに生活するが、人間は植物が無くては生活の出来ぬ事である。」とも語られていたそうです。こちら(人間)の都合で野の草々を迷惑なものとしてとらえ、十把一絡げに扱うことを戒めた言葉ではないかと思えます。この言葉の裏に、名もない野の草々の1本1本に大きな愛を注いでおられた博士の心が伝わってきます。

天も地も、そして、私たち人間を含めてそこにいるすべての命あるものは、神様の大きな愛の下に創造されたものです。それぞれに「天分」が与えられ、唯一無二の存在です。こども達、保育者、そして保護者の皆さんと共に、神様が大きな愛をもって、命を天分を与えてくださったことに感謝しつつ、唯一無二の存在として、それぞれが輝き続けられるような歩みを続けていきたいと思えます。

6月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	おもしろい	動き出す
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *保育者や身近な友達と好きなあそびを見つめる。 *まわりのものを見たり、触れたりして喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> *神様の創られた自然の不思議さに目を向ける。 *遊びを楽しむ中で自分の気持ちを伝えようとする。 *友だちや保育者の言動、遊びに心を動かす。
讃美歌	「ひとりひとりのなをよんで」 幼児讃美歌 1120	「かなしいことがあっても」 こども改 131